

「情報に向き合う姿勢を考える」

トイレットペーパーデマ騒動を例として

F-1
コロナ禍

【対象】

小中高校生、司書教諭、学校司書、一般教員、一般 など

【時間】 100分

学校なら2時間扱い程度

【会場】

教室 会議室 新聞博物館

【参加者の持ち物】

新聞を2・3部持参 筆記用具 のり はさみ など

【準備】

キット 9-1 9-4 9-10 9-12 9-13 9-14

【講師】 新聞博物館に相談するのも可。見学

して説明を聞くとよい。学校の場合、講師がいなくても教員で行うこともできる。

【活動の流れ】

(1) トイレットペーパーデマ騒動から情報に向き合う姿勢を考える。

① トイレットペーパーデマ騒動の記事を見る (キット 9-1 9-4 9-10)

- ・時系列に並べた記事を見る (教員が一つ一つ大きな画面で見せていってもよいだろう。)
- ・その時その時に、家族が話していたこと、自分が思ったことなどを発表する。

② トイレットペーパーデマ騒動の経緯を教師 (講師) から説明

- ・簡易資料集 P33 の図を示しながら経緯を解説 (キット 9-1 9-4 を参考に)

③ ニュースパーク学習動画 ④ 「くらしを支える新聞産業」を視聴

[ニュースパーク学習動画](#) | [ニュースパーク \(日本新聞博物館\)](#) (newspark.jp)

- ・焦点を絞るためにその中の「情報社会を支える新聞」の部分だけを視聴するとよいかもしれない。
- ・新聞博物館での講座なら、スタッフに解説してもらいながら展示を見るとよい。

④ 『情報の森 冒険の手引』を読んで、大切な点を確認する。(キット 9-14)

(2) 実際に賢者のアイテムを試してみる。(ワークシート利用) (必要なら 9-12 9-13 を)

① 気になる記事の一つを選ぶ。

- ・思考を誘導されるかもしれないのでトイレットペーパーデマ騒動ではないほうがよい。また、コロナ関連記事から離れて今現在の記事で子どもが興味を持ったものがよいかもしれない。

② Web サイトなどでも調べ、内容について自分で考えてみる。

- ・『情報の森 冒険の手引』のアイテム「盾」「スコープ」「ひかり球」の視点で各自検証してみる。

③ アイテムの「なかま」で意見交換

- ・いろいろな人に意見を聞いてみる。(聞くのはなるべく年齢や立場の違う人を選ぶ。)
- ・聞かれた人はなるべく違う視点や立場の意見を返すとよいだろう。

④ 「なかま」からもらった意見をもとに、自分の考えをもう一度考えてみる。

⑤ 記事と意見を発表

- ・廊下等に掲示して、また他の人から意見感想を付箋に書いてもらうのも、共有・深化できてよいだろう。

【その他】 次ページのワークシート参照

- ・学校なら (1) と (2) を、それぞれ1時間ずつで扱うこともできる。小学校などは難しい場合もあるので対象に合わせてアレンジして行ってほしい
- ・最後に「いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募してもよいだろう。

[いっしょに読もう！新聞コンクール・NIE 月間](#) | [NIE 教育に新聞を](#)

(2) のワークシートの例

選んだ記事を貼りましょう。

初めて読んだ時の感想は？

賢者のアイテムで点検！

【 盾 】 ここで盾の出番！

最初に感じたのを信じていいの？ ちょっと立ち止まって考えてみよう。

【スコープ】 発信者はだれ？

【ひかり球】 他の考え方はないかな？

【 なかま 】 意見交換でもっといい考え方が生まれる！

()さんの意見・感想…

()さんの意見・感想…

()さんの意見・感想…

あなたの意見・感想 4つを使って変わったかな？